

■ 開催要項

日時／2009年11月12日(木) 13:30開会  
 会場／ホテルサンルート白河 TEL.0248-24-0001  
 参加費／5,000円(資料費・懇親会費含む)  
 主催／福島県中小企業家同友会  
 主管／福島県中小企業家同友会白河地区

●締切：一次締切 10月20日／最終締切 11月5日  
 ※手配の都合上、11月10日以降のキャンセルはできません。

宿泊プラン ホテルサンルート白河 ●シングル 5,500円(税込) 1泊朝食付

■ スケジュール

13:00 受付 ホテルサンルート白河・1階  
 13:30 開会・全体会 ホテルサンルート白河・2階  
 13:40 記念講演 ホテルサンルート白河・2階  
 15:00 分科会 ホテルサンルート白河  
 南湖神社(バス移動)  
 18:10 全体会 ホテルサンルート白河・2階  
 18:30 懇親会 ホテルサンルート白河・2階  
 19:45 閉会 各地区へのバス出発

会場案内図



■ アクセス

電車▶東北新幹線・JR東北本線：新白河駅より徒歩1分  
 自動車▶東北自動車道：白河IC～国道4号線を白河、郡山方面へ  
 白河中央スマートIC～国道4号線を黒磯、東京方面へ



第33回 経営者交流大会 参加申込書

※本登録内容は行事運営のため、同友会事務局の管理のもとに参加名簿等に活用されます。

名前(ふりがな)	役職	分科会	第1希望	宿泊	要・不要
企業名		分科会	第2希望	宿泊	要・不要
名前(ふりがな)	役職	分科会	第1希望	宿泊	要・不要
企業名		分科会	第2希望	宿泊	要・不要

会員ご本人はもちろん、幹部社員や後継者、お取引先の経営者の方など、多数お誘いの上、ご参加ください！

お申し込みは事務局まで▶FAX024-934-3089

第33回 経営者交流大会

2009.11/12(木) 13:30開会  
 会場／ホテルサンルート白河

主催：福島県中小企業家同友会 主管：福島県中小企業家同友会白河地区

歴史の風が吹く白河で

100年企業宣言

～100年に一度の危機だからこそ、  
 理念を高く掲げ、社員・地域と共に～







**■講師プロフィール**  
1935年 大阪市出身。1957年 中央大学法学部卒業。1959年 同大学院法学研究科修了後、東京都入庁。監査事務局第二課長、総務局災害対策部企画課長、行政部政課長、工科短大事務局長、監察員、総務局災害対策部長、交通局総務部長、同局次長を経て、1992年に交通局長。1994年 退職後、東京都地下鉄建設株式会社 代表取締役専務に就任。1998年 株式会社はとバス 代表取締役社長 就任。2002年9月に退任後、同社特別顧問及び東京都交通局経営アドバイザー委員を歴任。現在、「三やか」（心おだやか、体すこやか、行きさわか）人生を貫くための生き方アドバイザーとして活躍中。

【記念講演】 13:40~14:50

# お茶一杯から始まった “はとバス”の経営改革

～私の実践的企業経営論～

講師：宮端 清次氏 株式会社はとバス（元）社長

東京観光バスツアーの代名詞ともいべき「はとバス」。しかし、そんな同社にも1998年までの4年間連続赤字で無配、約70億円の有利子負債があり、グループ全体では債務超過となり、メインバンクから、年に何回も借り換えをして凌いでいたという危機があった。宮端氏はそんな倒産寸前のはとバス社長に就任。「会社を潰したくなかったら耐えてほしい」と訴え、徹底した顧客サービスと社長以下全社員の賃金カットを断行。顧客の声、従業員の声に応える体制づくりを皮切りに、社員自ら改善策を作る全社員サービス研修で社員の意識を変えるサービス改革を推進、社長や社員は自腹でバスに乗り、顧客と同じ目線でコースを体験するなど、トップの率先垂範で社員に現場第一、顧客第一の心を築いた。また、看板ツアーも含め商品の見直しや絞り込みを行った。シニア向けの主催旅行は、はとバス復活の象徴である。経営者の経営責任を明確にさせる、顧客満足からさらに顧客の感動を目指す、社員は大切に、ただし甘やかさず、仕事は厳しくすることが重要、と語る宮端氏の経営実践から、私たち地域の中小企業が今後100年継続するためのヒントを学びます。



実行委員長挨拶

第33回  
経営者交流大会  
実行委員長

鈴木 俊雄

我々中小企業は、大変困難な状況におかれている。平成12年から始まった小泉内閣による「構造改革」により地域経済が疲弊し、さらに昨年9月のアメリカのリーマンブラザーズの破綻に始まる世界同時不況は津波のように全世界に波及し、中小企業はさらなる空前の苦境に立たされた。1929年のブラックマンデーに始まる世界恐慌の再来を思わせるこの不況に恐れおののき「100年に一度の不況」と叫んだのはこともあるが、新自由主義の主張者である米国FRB議長のグリーンズパン氏であった。その後、この「100年に一度…」の言葉が文字通り世界中を駆け巡り、必要以上の不安を振りまいてしまった。それから一年、欧米諸国や中国なども大規模な財政出動の効果が出て、景気の底打ちを宣言し始めている。我が国においても平成21年度の補正予算の執行により、景況感がようやくプラスに転換した。しかしながら、中小企業に与えた影響は簡単には回復することなく、いまだ困難な状況にあることに変わりはない。この時期だからこそ、企業経営にとって「100年」という言葉はどういう意味を持つのか考えてみたいと思い、交流大会のテーマに掲げさせていただきました。そして、グローバルリズムによる新自由主義の破綻の次にどのような経済システムが可能なかどうか、「中小企業憲章」を学習し、地域経済の自立の可能性を模索したいと考えました。「歴史の風が吹く白河」の地で、100年先まで生き延びる企業を目指し大いに語り合い、交流を深めていただければ、大会の開催者としてこれに勝る喜びはありません。



100年企業宣言  
とは？

歴史が長い企業だけをクローズアップするのではなく、参加者全員が「これからの100年」に向かって挑戦しよう！という趣旨。報告者についても、必ずしも「100年続いた企業」ということではなく、今後100年の舵取りのために必要な課題……将来の青写真づくりとその実行[経営指針]、社員の求人と共有[人材育成]、持続可能な地域・企業づくり[環境・障がい者・農工商連携]、事業継承[後継者問題]などをテーマに掲げ、県内の会員企業を中心に仲間の経営体験に学び、参加者一人一人が自社の今後の100年を描き、学び合う大会とします。

【分科会】

15:00  
～  
18:00

■第1分科会  
【経営指針】

報告者/菊地逸夫さん  
(株)キクチ 代表取締役  
[相双地区]



設営:経営労働委員会

「あつて良かった」と言われる店でありたい  
～大手との競争の中で“負けられない”フレスコキクチの店・人・商品づくり～

創業は江戸末期、相馬藩の米穀商にまで遡る市内屈指の老舗企業6代目の菊地社長。父である先代の5代目信郎社長の時代に法人化、セルフサービス、食品スーパーへと業態転換。兄・弟とともに家業を継承した菊地さんは、1989（H1）年に31歳で代表取締役就任。1992（H4）年に設立1年後の同友会相双地区に入会。同友会の例会での発表で、当時スーパー3店舗、年商17億だったものを「将来100億企業をめざす！」と宣言。大型店の出店ラッシュ、消費者指向の変容など、激変する食品スーパー業界の中で「社員と共に育つ企業」「地域密着の店づくり」を進める菊地社長の経営実践に学びます。

■会社概要  
創業:江戸末期  
資本金:4000万  
社員:25名・パート:500名  
年商:95億円  
相馬市・南相馬市・宮城県に食品スーパーマーケット8店舗を展開。

●1958年生まれ。後継者。

■第2分科会  
【社員の採用・共有】

報告者/渡邊兵吾さん  
(株)エクストエンジニア  
代表取締役 [田村地区]



設営:共同求人委員会・社員共有委員会

ITバブル崩壊からの復活は、社員の技術力アップから！  
～365日稼働・コンビニ工場を支えるのは、社員の確かな技術力～

常業町の農家出身の渡辺社長。高校卒業後、東京で製造業の会社に就職し、25歳の時に故郷に戻り、実家の納屋を改造して3人で常業ダイカストを創業。その後、順調に業績を伸ばし、平成11年には本社工場を移転し、大規模な設備投資を行う。が、その直後に襲ったITバブルの崩壊。創業以来、初の赤字に転落。その後、自社の経営体質の見直しを図り、2年で黒字に回復。その秘訣は、社員教育によって裏打ちされた個々の社員の確かな技術力、そしてそれをベースにした「365日稼働のコンビニ工場」という営業展開にあった。ゼロからスタートした同社が、どんな社員の採用・共有・レベルアップを図ってきたのか？昨今の厳しい情勢の中での経営展開の様子なども含めて学び合います。

■会社概要  
創業:1977（S52）年  
資本金:1000万  
社員:75人・パート:20人  
精密切削加工部品の製造販売

●1952年生まれ。創業者。

■第3分科会  
【環境】

報告者/平沼辰雄さん  
(株)リハイブ 代表取締役  
[愛知同友会/中同協地球環境委員長]



設営:環境委員会

“嫌われる”会社から、“地域に必要とされる”会社へ  
～「何でこんな業界で汚いことをやらなければならないのか」と思った平沼社長は今？～

「何でこんな業界で汚いことをやらなければならないのか」と思って入ったこの業界。同友会に入会したとき、「あなたの会社の存在意義は何ですか」と聞かれ、ドキッとして何も答えられなかった平沼社長。「リハイブ」とは「回復する、復元する」という意味で、若手社員と一緒に考えたもの。「社会的に存在価値のある会社になりたい」という思い入れがここに表れており、「解体」だけでなく、原状の回復や復元を目指す思いで新たなスタートを切った。同社の目標は、まず産業廃棄物業界のオピニオンリーダーになること。産業廃棄物のマネジメント、いわゆる循環型の社会システムマネジメントを行っている。解体工事ではすべて再資源化され、埋め立てゼロを目指し、手選別の分別作業を行っている。中には手選別のできない処理困難物がでてくるが、処理困難物にはイエローカードを出すことで、排出企業に改善提案をし、適切な分別を促している。中同協地球環境委員長も務める平沼氏。同友会の目指す「環境保全型企業づくり」についても合わせて学びます。

■会社概要  
創業:1964(S39)年  
資本金:1200万  
社員数:44人  
(内正社員27名)  
建造物解体、産業廃棄物処理、環境回復・復元

●1911年生まれ。後継者。

■第4分科会（パネル討論）  
【中小企業憲章・中小企業振興基本条例】

パネラー

藤田光夫さん 鈴木和夫氏 牧野富雄氏  
(株)藤田建設工業 代表取締役 白河市長 白河信用金庫 理事長  
同友会白河地区会長



コーディネーター/須藤博之さん (中小企業憲章制定推進本部)

設営:中小企業憲章制定推進本部・政策委員会

地域を担う中小企業…自覚と誇りを持って、地域の再生を！  
～地元中小企業・行政・金融が一体となって、地域の暮らしを守る～

地域経済の疲弊。そんな中で、私たち中小企業の役割を自分たち自身がもう一度認識し、その上で地域の皆さんと共に地域の経済・文化を守り抜いていくことが中小企業の大きな役割として期待されています。もちろん企業だけではなく、地域の行政・金融機関などが一体となって地域の人々・お金の循環を描き、実践していく「地域としての経営ビジョンの立案とその実践」が問われています。開催地である白河・東南地域をモデルに、私たちは何を描き、それぞれがどのように行動すべきか？ 地域を支える様々な立場の方からの発言を元に、中小企業の役割と責任、そして地域内での連携による地域の再生ビジョンを考えます。

- 藤田建設工業(株)▶創業1952年/資本金9,036万円/社員数180名/総合建設業
- 白河市▶面積305.3km<sup>2</sup>/人口65,040人(2009年8月1日)
- 白河信用金庫▶創立1925年/出資金1,082百万円/預金量1,705億円/従業員197人・パート23人/福島県内13店舗2出張所・栃木県北部2店舗

■第5分科会（パネル討論）  
【事業継承】

パネラー

西條勝昭さん 新井 豪さん 鈴木和己さん  
西条タクシー(株) 社長 (株)協和エムザー 部長 (株)エスピー商会 専務



コーディネーター/渡辺徳之さん (後継者塾塾長)

設営:後継者塾

100年企業！事業継承なくして未来はない  
～みんなで考えよう！同友会的パトントッチ…

事業継承という大きなテーマでの分科会を企画するにあたり、実際に継いだ側・これから継ぐ側・双方のパートナーである経営幹部それぞれの視点から、大会テーマである「100年企業」というキーワードに沿ってパネルディスカッションで問題提起を行います。また、100年に一度の危機だからこそその事業継承の意義・理念の継承・不易流行という事柄を同友会理念と照らし合わせて考える分科会とします。

- 西条タクシー(株)▶創業1964年/資本金1,000万円/社員数153人/タクシー事業
- (株)協和エムザー▶創業1968年/資本金1,000万円/社員数65人/害虫駆除・廃棄物処理・給排水設備管理
- (株)エスピー商会▶創業1966年/資本金2,700万円/社員数100人/自動車部品卸売、イエローハット運営

■第6分科会  
【白河地区で100年企業を考える  
移動・見学分科会】



設営:実行委員会

“白河の歴史の風”から、100年企業のあり方を学ぶ  
～白河ゆかりの渋沢栄一・渋沢商学に学ぶ見学分科会～

松平定信公を祀る南湖神社を訪問。渋沢栄一が創建した同神社の宮司から、渋沢栄一の商学について学びます。さらに、「天地人」ゆかりの防塁跡などの見学も行います。

【コース】

ホテルサンルート白河 → 皮籠・防塁跡(直江兼続が徳川家康に対して仕掛けた「幻の関ヶ原」の現地を見学します) → 南湖公園・翠峯苑(松平定信ゆかりの茶室を見学します) → 南湖神社(同神社を創建した渋沢栄一の商学に学びます) → ホテルサンルート白河

■渋沢 栄一とは…幕末の幕臣、明治～大正初期の大蔵官僚、実業家。第一国立銀行や王子製紙・日本郵船・東京証券取引所などといった多種多様な企業の設立・経営に関わり、日本資本主義の父と呼ばれる。